

新蕨市立病院建設基本設計(案)

2026.03

～市民の命と健康を守る拠点～ 変わることをない安心を届ける“新蕨市立病院”を実現します

新病院整備の基本理念

- 市民の健康の維持増進を第一とし、地域住民に愛される病院となることを目指します。
- 患者及び家族の皆様が満足できるよう、安全で質の高い医療サービスの提供を目指します。

建物整備の基本的な考え方

- 01 バリアフリー、ユニバーサルデザインへの対応
- 02 プライバシーへの配慮
- 03 災害に強い施設
- 04 省エネルギー化
- 05 近隣環境と景観への配慮
- 06 機能性と利便性の確保
- 07 親しみと安らぎを感じさせる施設
- 08 働きやすい職場環境の整備
- 09 建設・維持管理コストを抑え経済性に配慮した施設

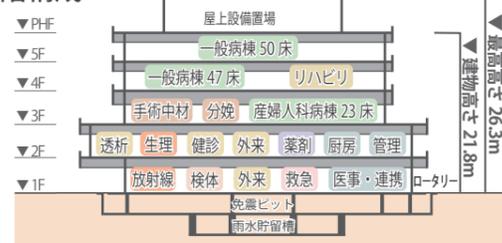


計画概要

敷地概要

- 所在地：錦町土地区画整理事業 仮換地 122 街区
※現在の住居表示：蕨市錦町 3 丁目 3 番 41 号
(現西公民館及び老人福祉センター松原会館等敷地)
- 敷地面積：4,990 m² (うち、道路敷地 445 m²)
- 用途地域：第 1 種中高層住居専用地域、第 1 種住居地域

階構成



建築計画概要 (新病院棟)

- 建築面積：約 2,450 m²
- 延床面積：約 9,020 m²
- 標榜外来：内科、小児科、外科、整形外科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科
- 病床数：120 床
- 階数：5 階建て
- 構造：鉄骨造+CFT 造、免震構造

事業スケジュール

2025 年度 (令和 7 年度)	2026 年度 (令和 8 年度)	2027 年度 (令和 9 年度)	2028 年度 (令和 10 年度)	2029 年度 (令和 11 年度)
基本設計・実施設計		新病院建設		★開院
				準備期間

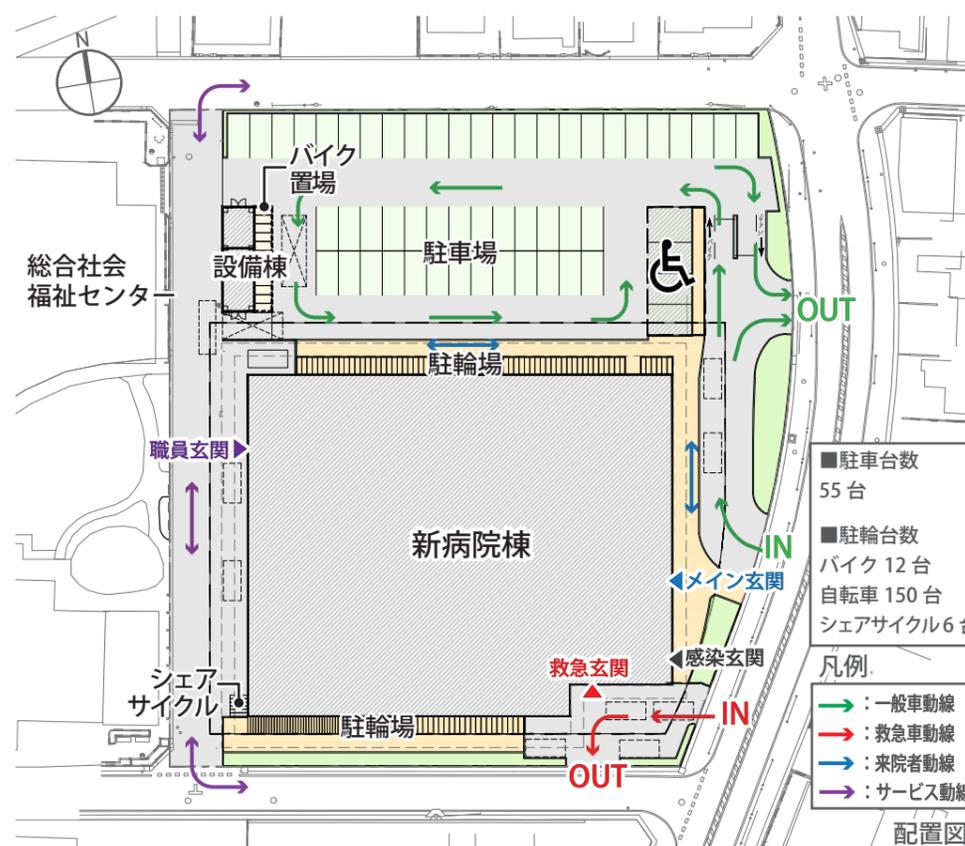
概算事業費・財源計画

項目	約	金額
設計及び監理費	約	3.2 億円
建設工事費	約	87.0 億円
合計	約	90.2 億円

※建設工事費は、敷地内の建物・設備・外構の工事費です。
※概算事業費には、什器・備品・医療機器・医療情報システム等は含まれません。
※概算事業費は現段階での積算であり、今後の実施設計及び社会情勢等により変動する可能性があります。

・主な財源は病院事業債となり、新病院での収益及び蕨市立病院建設基金(約 30 億円)を活用した一般会計からの負担金を当てていく考えです。また、国県の補助金等も可能な限り活用します。

近隣環境に配慮した配置・外部動線計画



① 配置・外部動線計画

- 新病院建物は敷地の南西側に寄せ、北側にまとめた利便性の高い駐車場を確保します。
- 都市計画道路錦町松原線に面して IN と OUT を分離した車両出入口を計画します。
- 都市計画道路錦町松原線に面して、軒により雨に濡れず乗降できる車寄せを計画します。
- 救急車動線は敷地南東側、サービス車両動線は敷地西側に計画し、一般車両動線と分離して計画します。
- 駐輪場は建物北側と南側に、バイク置場は駐車・駐輪スペースと分離して計画します。

② “生活のまち”と共存する“やさしい病院”

- 近隣の住宅環境へ最大限配慮した配置計画とします。

I 建物を南西に寄せ、北側住宅地への日影・圧迫感の影響を軽減

II 敷地境界には緑地帯を設け住宅地前の道路環境を向上

III 一般車・救急車は東側進入に限定し、南・北道路の交通量を最小化

IV 上層階にはバルコニーを設置し、近隣住宅への見下ろしを防止



蕨の歴史・文化を継承し地域に根差した“やさしい病院”をつくります

蕨市のまちなみ・景観と調和した外観デザイン

① 蕨市のまちなみ・歴史・文化の継承

- 蕨市を代表する双子織のストライプラインをモチーフとした「縦リブ」のバルコニーによる外観とし、旧中山道や住宅街になじむアースカラーのデザインとします。
- 正面玄関の大庇は、織物が“たおやか”にめぐりあがる様なデザインとし、市民をやさしく迎え入れます。



市民をやさしく
迎え入れる正面
玄関の大庇

旧中山道の街並み

双子織

② 永く市民に親しまれ続ける外装計画

- 建物外周にバルコニーをまわすことにより外壁や建具、空調室外機などのメンテナンスが容易にできる計画とします。
- 外装に使用する材料は高耐久かつ維持管理がしやすいものを選定し長寿命化を実現します。



縦リブバルコニー



災害に強いBCPホスピタル

① 大地震に対応する免震構造

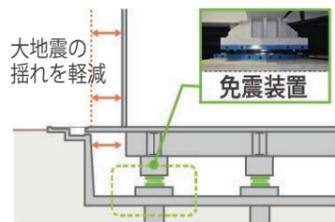
- 新病院は免震構造を採用し、地震災害に強い建物とします。
- 地震時の揺れを軽減することにより、医療機器や什器、各種設備等の転倒や破損を防ぎ、大地震後も医療機能を継続できる構造計画とします。

② 内水・洪水に対する浸水対策

- 1階の床は蕨市内水ハザードマップをもとに地盤レベルよりも30cm高上げし建物内への浸水を防ぐ計画とします。
- 荒川氾濫等による大規模な洪水を想定し、受水槽・受変電設備・ガスガバナナーなどの重要インフラは2階の床高さ以上に設置します。

③ 災害発生時のインフラ途絶への対応

- 災害発生時によるインフラ途絶に備え、電気・ガス・給排水・医療ガスのライフラインのバックアップを構築します。
- 都市ガスは地震災害に強い「中圧ガス」を引き込む計画とし、非常用発電機設備と合わせ、エネルギーの多重化を図ります。



大地震に対応する免震構造

電力	非常用発電機設備 72時間分
都市ガス	地震に強い中圧ガス管による引込
給水	受水槽 72時間分、非常用応急給水栓
排水	非常用排水処理槽 72時間分
医療ガス	予備酸素ボンベ 72時間分

ライフラインのバックアップ

プライバシーと機能の確保、親しみと安らぎを創出

① 患者に合わせた2種類の個室を計画

- 病室の個室は、医療スタッフから見守りしやすいようベッドを廊下側に配置した個室と、プライバシーに配慮しベッドを窓側に配置した個室を計画します。



個室病棟イメージ

② 親しみと安らぎを感じさせるラウンジ

- 総合待合に来院者ラウンジ“わらびプラザ”を、病棟には入院患者やその家族などがくつろげる、窓に面した“患者コモンラウンジ”を計画します。



わらびプラザイメージ

③ すべての来院者が利用しやすいデザイン

- 階段、エレベーター、トイレ、廊下等のバリアフリー化や、授乳室の整備などすべての来院者が利用しやすい環境をつくります。
- 日本語が苦手な来院者でもわかりやすい、多言語対応のサイン、誘導計画を行います。



④ 感染症専用エリアと専用動線を明確に分離

- 感染症外来には専用の玄関、待合、トイレを設け独立した動線を確保します。
- 感染症拡大時は一般病床と区分できる感染症対応病床を計画します。

ローコスト・省エネ設計でライフサイクルコストを削減

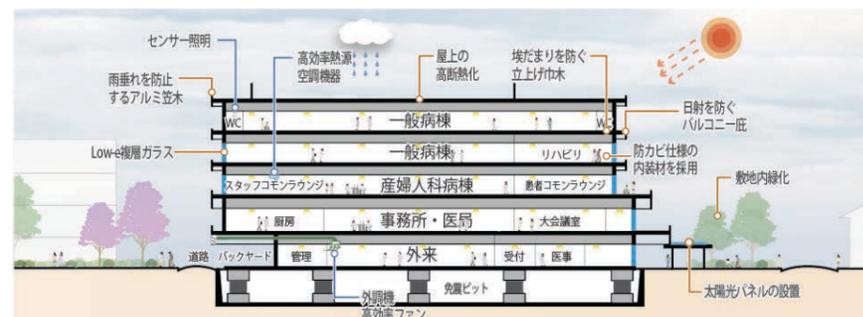
① 建物形状のコンパクト化によるローコスト設計

- 免震構造に適したシンプルな整形の建物とし、合理的でローコストな計画とします。
- 建具、仕上りや設備機器の仕様統一と標準化を行うことによる合理化で、コスト削減を図ります。



② 省エネ設計によりランニングコストを削減

- 外壁、屋上の高断熱化やバルコニー庇による日射遮蔽、高効率設備機器の採用などにより、ランニングコストを削減します。
- オープンエンドの廊下への自然採光や太陽光発電など自然エネルギーを活用します。



省エネに配慮したエコホスピタル

光と緑があふれる開放的な“わらびモール”により 来院者にとってわかりやすく快適な院内環境をつくります

- わらびモール端部の吹抜け窓から外の光と緑を感じられる開放的な空間をつくります。
- わらびモールを軸にエレベーターや、各診療エリアを合理的にレイアウトした明快でわかりやすい平面計画とします。
- 外来患者、救急、感染、スタッフの各動線を機能的に分離します。
- 1階総合待合に待ち時間を快適に過ごせるよう来院者ラウンジ“わらびプラザ”を計画します。
- 2階の大会議室“わらび健康ひろば”は健康講座など市民に開かれた空間とします。



エントランス・総合待合 “わらびプラザ”

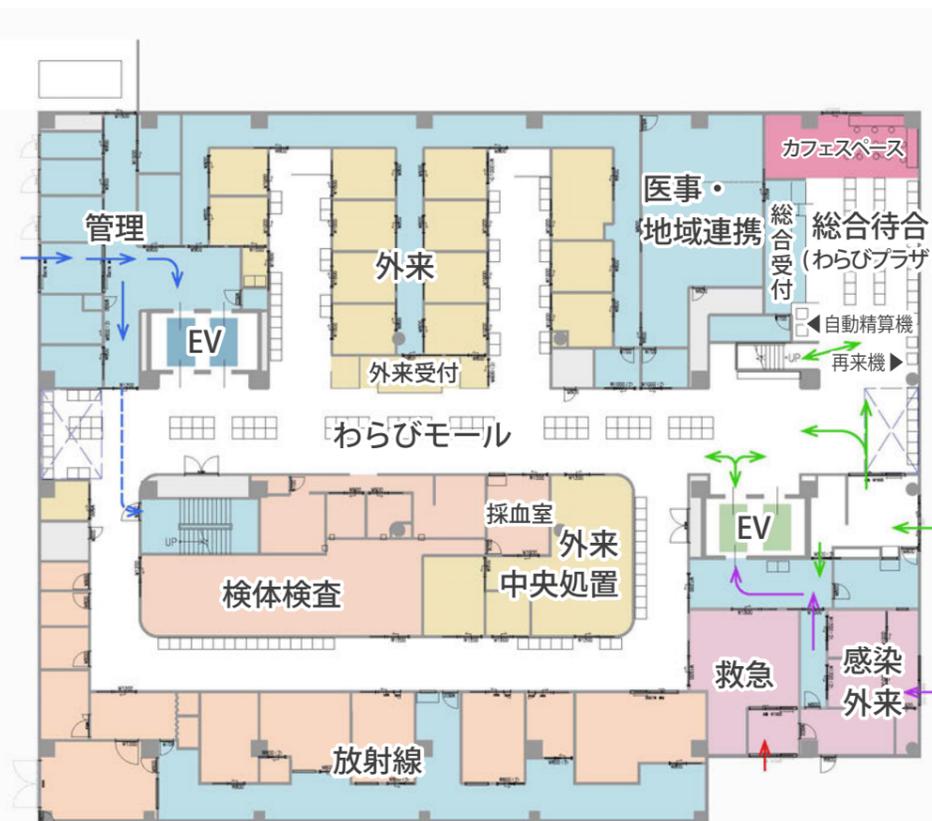


わらびモールと外来受付



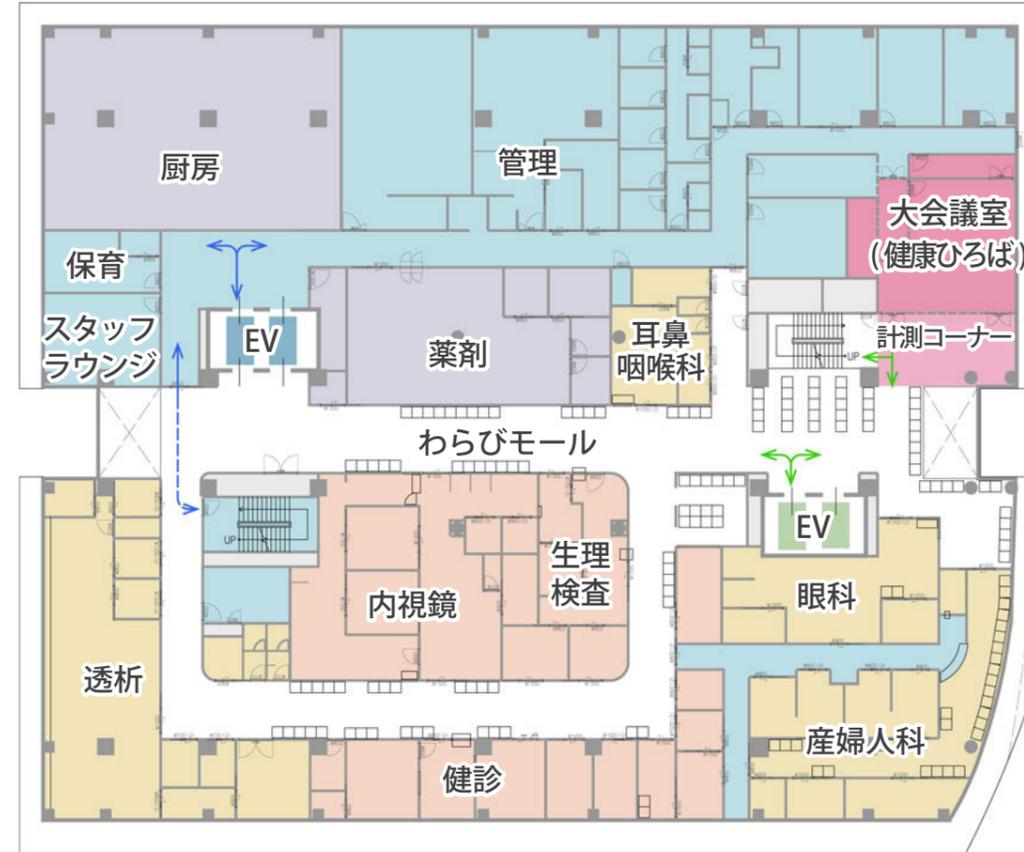
大会議室 “わらび健康ひろば”

1F “わらびモール”を軸とした外来・救急・放射線・検査・医事のフロア



- 1階外来は内科、小児科、整形外科、外科(皮膚科、乳腺外科含む)の配置を想定
- 1階事務に地域医療連携を配置し、総合受付周辺に患者支援カウンターと相談室を計画
- 再来機は入口からわかりやすい位置に、自動精算機は帰宅時にわかりやすい位置に計画
- 患者、来院者用エレベーターと職員、業務用エレベーターを分離し、動線の混在を防止
- オープンエンドによる自然採光により明るい“わらびモール”を設け、患者が待ち時間を快適に過ごせる計画
- 診察室近くに共用の採血室と中央処置室を計画
- 救急部門は救急患者のレントゲン等の検査やその後の対応を迅速に行えるよう、放射線部門と中央処置室を近接配置
- 感染外来は外部から直接院内に入れ、待合スペースやトイレを備えた計画
- 検体検査室は1階に集約し、トイレと採血室に隣接して計画

2F 健診機能と一部の外来・透析・薬剤・栄養・管理のフロア



- 2階外来は、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科の配置を想定
- 共用の内視鏡室や生理検査室を近接して配置することで、機能的な健診センターを計画
- 人工透析室には感染症対応をふまえて個室も整備
- 幹部諸室、事務室、医局、当直室などは集約配置
- 大会議室は移動間仕切壁により2室を一体として利用できる計画
- 大会議室は健康講座等のイベントにも利用可能なわらび健康ひろばとしての利用のほか、浸水被害発生時は診察スペースとして利用できるように計画



浸水被害発生時の大会議室イメージ



凡例

- ← 患者動線
- ← 救急動線
- ← 感染動線
- ← スタッフ動線

入院するすべての患者さんを見守りやすい“オープンステーション病棟”により 迅速なケアを実現します

- 患者に目がゆきとどき易いよう、スタッフステーションは病棟中央に配置した計画とします。
- 男女区分など、自由度の高い病棟管理や入院患者のQOL向上のため、一定数の個室を確保するとともに多床室も計画します。
- 個室は重症患者の見守りやすさなどに配慮し、スタッフステーションに面して計画します。
- 廊下はオープンエンドとし病棟の中へ自然採光が入る計画とします。



患者さんを見守りやすいスタッフステーション



スタッフからの見守りとプライバシーに配慮した個室



快適な療養環境を確保した多床室

3F 産科・婦人科病棟と分娩・手術のフロア

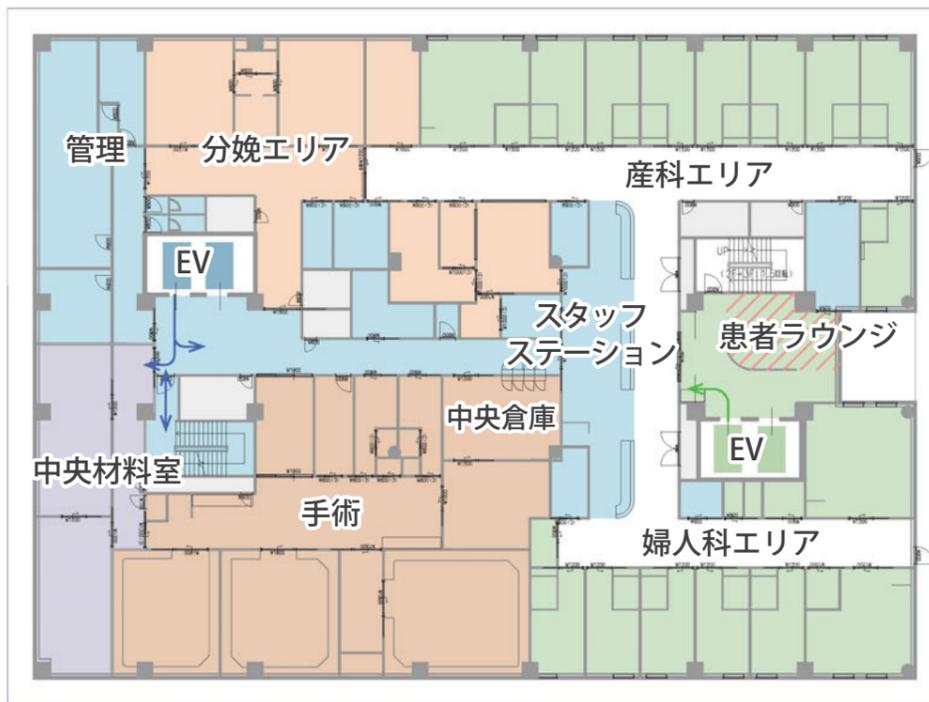
- 病棟の北側に産科、南側に婦人科を配置したレディースフロアを計画
- 手術部門は、当院で想定される用途に応じて複数の手術室を計画
- 院内の物流の要となる中央倉庫、中央材料室を集約

4F 一般病棟とリハビリのフロア

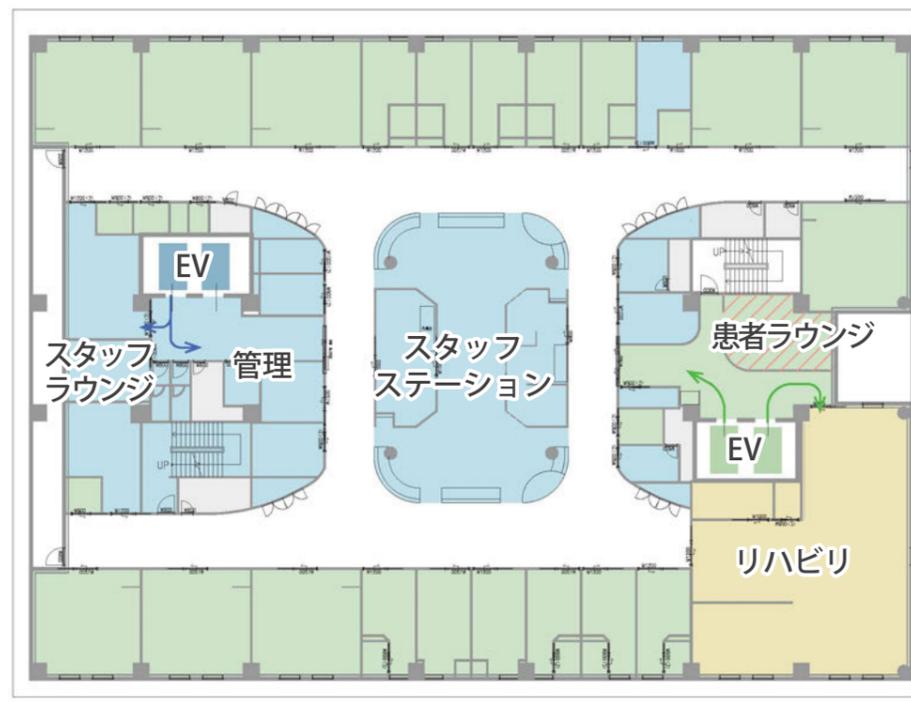
- リハビリ室を病棟に配置することで入院患者の移動負担を軽減
- 患者用エレベーターホールからリハビリ室に通じる入口を設け、外来患者と病棟患者の動線を分離した計画

5F 地域包括ケア病床も備えた一般病棟のフロア

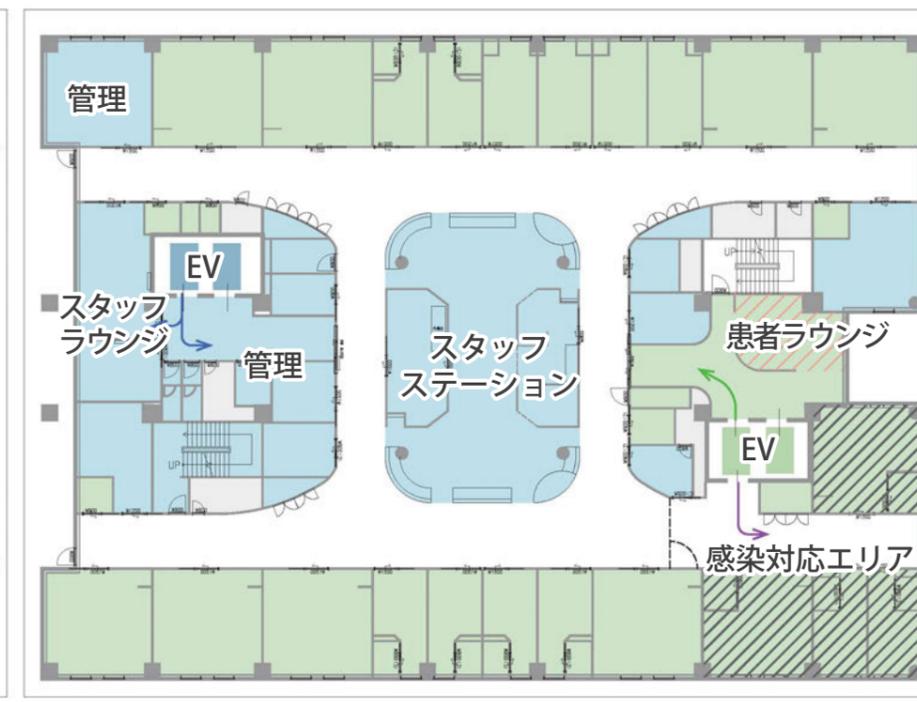
- 一般病棟 50 床のうち、一定数の地域包括ケア病床を確保
- 感染症発生時の病室利用を考慮し、一般病床と区分できる感染対応エリアを計画
- スタッフの休憩や交流、研修など多目的に使用できるスタッフCOMMONラウンジを計画



産婦人科病棟 23 床
産科 11 床 (3 床室 × 1, 個室 × 8)、婦人科 12 床 (4 床室 × 1, 3 床室 × 1, 個室 × 5)
個室率 56.5%



一般病棟 47 床
(4 床室 × 9, 個室 × 11)
個室率 23.4%



一般病棟 50 床 ※地域包括ケア病床含む
(4 床室 × 8, 3 床室 × 2, 個室 × 12)
個室率 24.0%



凡例

